

H28 年度医療技術等国際展開推進事業専門家派遣報告書

医学医療系心臓血管外科学，教授 平松祐司

派遣期間： 平成 28 年 10 月 23 日 ～ 平成 28 年 10 月 29 日

チョーライ病院心臓外科も日進月歩の進化を遂げており，小児心臓外科領域においては単心室疾患に対する Fontan 型修復も開始され，経験を重ねつつある。しかしながら，周術期管理，特に術中および術後管理において明確なリーダーシップが発揮されておらず，故にチーム一丸となって課題を克服して行く機運が不足している。今回，期せずして単心室疾患の重症例に遭遇し，開心姑息術後の重症心室機能不全に対して機械的補助循環（補助人工心肺；ECMO）を要することとなった。この重症の幼児症例を現地チームと共同で管理治療して行く中で，彼らに術後管理において重要な基礎的遵守事項や循環管理のノウハウを，机上ではなく，実際に即して指導することができた。これによって彼らの中に何らかの気づき生まれ，周術期管理におけるチーム医療およびコンセンサス共有の重要さが認識されたことを願いたい。今後管理マニュアルの作成，導入や，指揮系統の確立など課題は多いが，明確なリーダーシップのもと，チョーライ病院心臓外科および集中治療領域がさらなる進化を遂げるよう，継続的に協力したい。

